

ラッシュに巻き込まれなくなかったし、ダメージを受けたくなかったから。その2台をすぐに追い越すべきだったかもしれないけど、そこで冷静に待つ準備をしていた。それがとても大事なことだったと今は思うよ。

Question

3位から2位に浮上して、1位を抜いてやろうという気持ちは湧きませんでしたか？

平川:それはありませんでした。僕らアスリートは、結果がすべて。チャンピオンを取ることが目的なので抜いてやろうという気持ちはありませんでした。でもベースは速く、ギャップも縮まっていたので、自分のコントロールできる範囲の最高のベースで走れたと思います。

Question

3位から2位に浮上して、1位を抜いてやろうという気持ちは湧きませんでしたか？

キャンディ:そりゃあ「レクサス」だからね！シーズンの初めはアドバンテージがあったけど、すぐにウエイトハンデが乗って、シーズン中盤は勝つことができなかった。最終戦で日産が強くなってきた。ホンダもとても強かった。今は3社の車のパフォーマンス能力は拮抗している。もてぎ戦予選Q2にレクサスから3車、日産から3車、ホンダから2車出ていたことが示しているね。

Question

今シーズンは、どんなシーズンでしたか？

平川:1年を通して、チームにミスがなかった。LC500も速く、強い車でした。プリヂストンのタイヤも難しいコンディションの中で、いいパフォーマンスを、フォーマンズを發揮してくれたと思います。最終戦もチームみんながミスなく



やってくれたので、完璧なシーズンでした。皆さんに感謝しています。キャンディ:23歳でチャンピオンを得たというのすごいことだよ！昨年GT500に初参戦することになって、敵しいチャンピオンシップになることは分かっていました。その中でベストを尽くし、チャンピオンを獲得したことは僕にとってすごく嬉しいし、意味のあることだと思う。このチームで2年目に挑めたことに運命を感じる。この場を借りて、チームのみんなが僕を信頼してくれたことに感謝したいね。

Question

今シーズンのお互いの走りをどう思いましたか？

3番グリッドから決勝スタート。NSX勢にトラブル発生、波乱の幕開け
予戦での天候影響や赤旗による予戦中断もあり、2列目の3番手グリッドからの決勝スタート。今年も岡山県警交通機動隊の白バイ先導によるパレードラップを終え、フォーメーションラップとなる予定であったが、ポールポジションを含めた4台のNSX勢にトラブルが起り、スタートができないうらアクシデントが発生。波乱の幕開けとなる。
ニック・キャンディ選手が勝負に出る！完璧なマシンコントロールでトップへ
結果的に2番手スタートとなった37号車「Keeper TOM'S LC500」はスタートドライバーのニック・キャンディ選手がまたタイヤの温まっていた2周目に勝負に出た。バックストレートエンドでトップマシンのイン側にブレーキをロックさせ、白煙を上げながら飛び込み、完璧なマシンコントロールでトップに立つと、その後も快調なペースで後続を引き離す。しかし、他車のクラッシュなどによりセーフティカーが導入され、競っていたギャップがなくなりました。

気温が急激に下がり、2位との熾烈なトップ争い
36周目にルーティーンのピットインを順調に終え、ドライバーを平川亮選手に交代、トップのまま再度コースインしゴールを目指す。スタート時25℃あった気温が時間とともに急激に下がりは、レース中盤には10℃台後半、レース終盤には10℃台前半まで下がってしまった。すると37号車は比、ベ柔らかなタイヤをチョイスしていた2位が、固めのタイヤでペースが上がらないマシンに徐々に迫る。レース終盤の20周は2位との手に汗握る熾烈なトップ争いが続いた。

広島県出身の平川亮選手がクレバーな走りを見せ、トップを死守！
しかし、この岡山国際サーキットで育ったといっても過言ではない広島県出身の平川選手が抜群のライン取りとGT300クラスをうまく利用するクレバーな走りで見事にトップを死守。LEXUS LC500としてデビューWINをかぎた。14年のLEXUS RCFのデビューWINと2車種連続で新マシンデビューWINを獲得を果たした。

36号車・37号車にはダブルタイヤキーパーを施工しています。



37号車「Keeper TOM'S LC500」と、姉妹の36号車「au TOM'S LC500」には、キーパーコーティングを施工しています。予選・決勝の前にはメンテナンスをし、常に輝いてキレイな状態に。レース後に付着したタイヤカスやホコリも取れやすく、マシンの塗装を徹底的に守っています。

平川:ニックは本当にいい仕事してくれました。常に冷静に周りを見ながら戦ってくれました。もてぎ戦の予選Q1はがっちり取ってくれたし、決勝では2番手で渡してくれ、さらに後ろと10秒近いギャップを作ってくれました。僕が走りやすい状況に整えてくれたので感謝しています。キャンディ:初めの練習の時から良いコミュニケーションが取れていたし、この1年を通してそれがより良くなっていったと思う。互いに何を必要としているかをより理解できるようになったしね。月日が経つにつれ、自分たちのパフォーマンスが似てきたと感じるよ。これは僕たちがこれからはもっと良く戦うことの手助けになると思うよ。



たくさんのファンの皆様、ご声援ありがとうございました！

#37 LEXUS TEAM KeePer TOM'S SUPER GT 2017 シリーズ 年間チャンピオン獲得!!



栄光への軌跡

37号車「LEXUS TEAM KeePer TOM'S」は、SUPER GT 2017シリーズにおいて、念願のシリーズ優勝を獲得!! 第1戦(岡山国際サーキット)にて優勝、第7戦(チャン・インターナショナルサーキット)・最終戦(ツインリンクもてぎ)にてポールトゥウィンとトリプル優勝も果たすことができました。平川亮選手、ニック・キャンディ選手の若手ドライバーの大胆かつ賢いドライビング、多くのスタッフの熱意と力、そしてファンの声援がひとつになり、シリーズ優勝の栄光を手にすることができました。勝利までの軌跡を振り返ります。

第1戦 4/8(土)・9(日) 岡山国際サーキット 1位(シリーズ1位、ウエイトハンデ0kg)

平川&キャンディでデビューWIN!!